



# 学校評価だより

～中間自己評価～

令和7年10月 発行

珠洲市立宝立小中学校

令和7年度中間期の学校評価として、児童生徒・保護者・教職員アンケートをもとに自己評価を行いました。9月下旬には、学校関係者評価委員の方々に授業を参観していただきました。そして評価委員会での協議、ならびに1学期にとらせていただいたアンケートの結果や自己評価の結果（裏面）を実直に受け止め、今後の取組をどのようにするか等についてお知らせいたします。今後の取組を進めるにあたり、ご家庭にご協力いただくこともございますので、ご了承くださいますようお願い申し上げます。

本校の教育目標

ふるさと宝立の自然や人に学び、たくましく生き抜く子の育成

目指す児童生徒像

- ・確かな学力を身に付けた子（知育）
- ・思いやりがあり心豊かな子（徳育）
- ・健康・安全を育み、守る子（体育・食育）

本校の重点目標

- (1) 学習指導
- (2) 生徒指導
- (3) 健康・安全
- (4) 地域連携

重点目標



(1) 確かな学力を身につけた子の育成

(2) 思いやりがあり心豊かな子の育成

(3) 健康・安全を育み守る子の育成

(4) 魅力ある学校づくりの推進

本年度重点事項

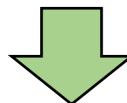


## (1) 学ぶ意欲の育成 自主的・計画的な家庭学習の習慣化

《結果・分析》  
○授業では、教師は課題解決に向けて、児童生徒に見通しをもたせ、「委ねる」場面を設定して自律した学習者の育成を意識して授業に臨んでいる。  
また、児童生徒は既習を生かして自分の考えを表現し、しっかりと振り返りまで行っている。  
【児生2・3, 教I-1・2】

○保護者から「授業がわかりやすいように工夫しているか」に対して100%の理解を得ています。  
【保2】

▲家庭学習においてICT端末の有効活用や自学ノート等の取り組みについては、学年が上がるにつれて肯定的な回答が少なくなっています。【児生4, 保1】



《改善策》  
△前期課程ではほとんど  
の児童が宿題に毎日取  
り組んでいるが、高学年においては、子ども教室で  
行っているため、家庭学習の習慣がしっかりと身に  
ついていないと思われます。高学年の児童も低学年  
と同様に、保護者に宿題の内容を見てもらうように  
協力を依頼します。

△後期課程では、定期テストや受験に向けた学習の仕  
方について指導していきます。

## (2) 自己管理能力、 自らコントロールする力の育成

《結果・分析》  
○挨拶を含めた「あいどる+下足」、自問清掃に関する回答は、児童生徒も教職員も概ね肯定的な回答であり、自主的に取り組んでいます。一方、保護者は家庭での様子からB判定となっています。  
【児生5・6, 保3, 教II-1・2・3】  
▲インターネット機器に関する項目「やりすぎないこと」や「ルールを決めて守っている」では、児童生徒、保護者ともに学年が上がるにつれて、肯定的な回答の割合が低くなっています。【児生4・6, 保4】



《改善策》  
△挨拶については、良好で  
すが、挨拶の良かった児童生徒を認めて価値づけ、さ  
らなる習慣化を図ります。  
△インターネット機器利用に関しては、「たからっ子わ  
が家の約束」を児童生徒に意識づけさせることが必  
要です。そのために以下の3点を実施します。  
1. 学校生活アンケートの質問項目に位置づける。  
2. 家庭学習チャレンジ習慣時に、学級通信等でお知  
らせし、保護者との連携を図る。  
3. クロームブック専用袋に「我が家の約束」用紙を  
常備する。

## (3) 望ましい生活習慣・食習慣の確立

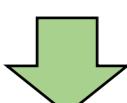
《結果・分析》  
○適切に食習慣に関する指導を行っていることから、児童・生徒は好き嫌いなく給食を食べています。しかし、家庭では朝食を食べないときがあるのが気になります。【児生7, 保5, 教III-1・2】  
○「睡眠時間」については、継続して実施している睡眠講話の効果なのか、学年が上がっても改善されています。  
▲「虫歯予防や治療」に関しては、長期休業中の治療等を推奨していますが、学年が下がるにつれて、肯定的な割合が低くなっています。【保6, 教III-2】



《改善策》  
△日々の体調や仮説住宅  
住まい等の要因は考  
えられます、保護者と連携して食事の大切さ、学習と  
の関係性等、継続的に指導していきます。  
△生活習慣や食習慣において、B以下の項目につい  
ては、生活や意識改善が必要な児童生徒に、個別指導を  
継続的に行います。また、保護者とも連携を図ります。  
さらに、指導内容や指導後の様子を職員間で共有  
して共通認識を図り、該当生徒への指導・声掛けを行  
っていきます。

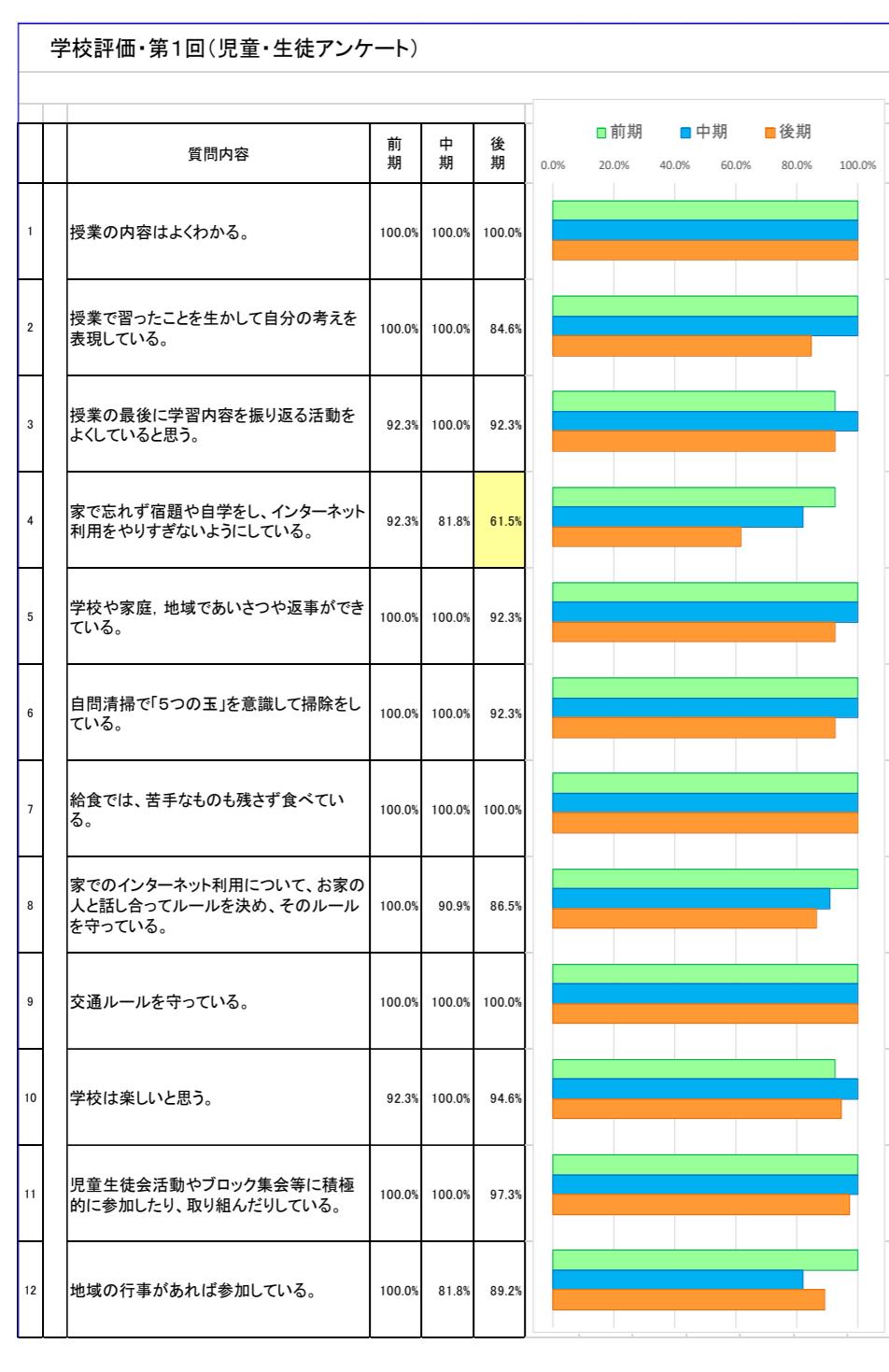
## (4) 学びを実感できる児童・生徒会活動の創造

《結果・分析》  
○目的や計画性をもって学習や行事、児童生徒会活動等に取り組んでいることから「学校が楽しいと思う」と回答する児童・生徒が多数を占めています。保護者アンケートも、「楽しそう」と感じている保護者が多いです。【児生10, 保9】  
○教職員は、9年間の連続した学びや魅力ある学校づくりを意識し、ふるさと珠洲科等、各教育活動に取り組んでいます。【教IV-1・2・3】  
▲地域の行事への参加については、行事が数少ないこと、児童生徒と教職員間で共通理解が図られていないことが要因となり、100%の肯定的回答に至つていません。【児生12】

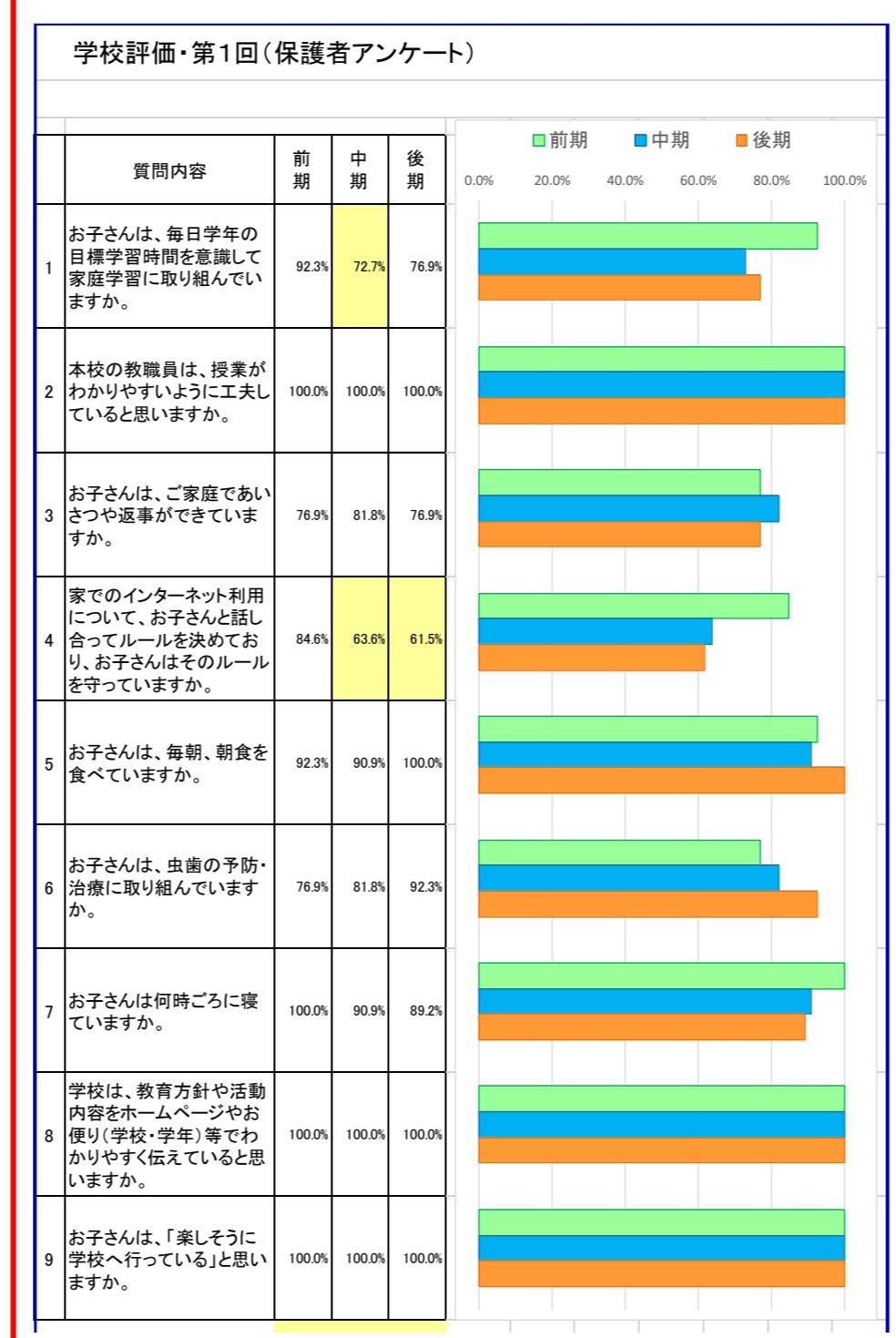


《改善策》  
△今後も児童生徒  
会を主に児童生徒の交流が深まるようなイベントを  
企画し運営します。  
△行事や教育活動に負担感を感じさせないように時間  
的配慮や的確な助言、声掛け等を行っていきます。  
△本校実施・経験した活動を軸にして、地域行事に参加  
したり、その取組（経験）を生かしたりできるよう配  
慮し進めていきます。

## 児童・生徒アンケート結果



## 保護者アンケート結果



## 教職員アンケート結果



肯定的に回答(4または3)した合計の割合を、判定基準の一つとして下記のように評価しています。また、C評価の項目(黄色部分)については速やかに改善策を考え対応します。

☆児童・生徒アンケート A(前期・中期: 85以上・後期: 80%以上)

B(前期・中期・後期: 70%以上)

C(前期・中期・後期: 70%未満)

☆保護者アンケート A(85%以上) B(70%以上) C(70%未満)

☆教職員アンケート A(85%以上) B(70%以上) C(70%未満)

### 【学校関係者評価委員からいただいた感想・意見】

- 授業の様子を拝見すると、タブレット端末の使用により全員が集中して学習に取り組む様子がわかる。学力向上に役立てほしい。
- 一方で、ゆとりが感じられないというか、休憩をとる余裕がない感じがして、児童生徒は内面的につらくなっているのが心配である。
- 身に付けなければならないことがあるのはわかるが、行事の多さに驚くし、その分先生方も準備等たいへんなのではないかと思う。体に気をつけて子どもたちのために取り組んでほしい。
- 授業では、自分の考えを積極的に発言していたし、友達の意見もしっかり聞いて受け止めていたように見えた。
- 家庭学習については、各家庭での指導が必要である。
- インターネットの利用についてはしっかりと考え方、連携して対応しないといけない。
- 七夕まつりは感動するほど素晴らしい活動だったと思う。



ありがとうございました。後期に向けて、これらの結果やご意見を踏まえ、学校全体で共通理解を図り、よりよい学校づくりをめざしてまいります。今後ともご協力をお願い申し上げます。